

日本性感染症学会 第33回学術大会

日時：12月5日（土）～6日（日）

会場：東京慈恵会医科大学（東京都港区）

テーマ：性の未来／感染症の未来—
AI時代の性感染症対策を考える

プログラム（Webのみ）：会長挨拶・会長講演「性感染症でない」HPV感染症 石地尚興（東京慈恵会医科大学皮膚科学）／Webセミナー「AIによるコルポスコピー診断は実用化されるのか」宮木康成（三宅おおふクリニック）／一般演題

プログラム（現地開催）：教育講演「郵送検査におけるガイドラインのあり方」渡會睦子（東京医療保健大学医療保健学部）／シンポジウム1「梅毒：診断と治療のポイント」：「梅毒の皮膚病変を見逃さない」斎藤万寿吉（東京医科大学皮膚科学分野）、「梅毒の口腔咽頭病変を見逃さない—口腔咽頭梅毒の特徴と、診断におけるピットフォール」余田敬子（東京女子医科大学東医療センター耳鼻咽喉科）、「眼梅毒のまめ知識」八代成子（国立国際医療研究センター眼科）／シンポジウム2「性感染症ワクチンの未来」：「HPVワクチンで子宮頸がんの撲滅は可能か」川名敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野）、「淋菌感染症及び性器クラミジア症ワクチンの未来」大西真（国立感染症研究所細菌第一部）、「HIVワクチン：粘膜ワクチン開発の展望」俣野哲朗（国立感染症研究所エイズ研究センター）／シンポジウム3「尿道炎：耐性化とその対策はどう進んでいくのか」：

「疫学」安田満（岐阜大学医学部附属病院生体支援センター）、「耐性機序：主に淋菌の薬剤耐性化について」志牟田健（国立感染症研究所細菌第一部）、「『検査』について」高橋聡（札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座）、「尿道炎原因微生物の耐性化と治療」濱砂良一（国家公務員共済組合連合会新小倉病院泌尿器科）／シンポジウム4「SNS時代の性教育のあり方」『イマドキ』の子どもたちと性—社会・環境による影響 岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）、「若年母支援と性感染症予防への取り組み」小川久貴子（東京女子医科大学看護学部）／シンポジウム5「性感染症診断治療ガイドライン2020：どこが変わったか」：「淋菌感染症」安田満、「性器クラミジア感染症」高橋聡、「性器ヘルペスガイドライン2020」渡辺大輔（愛知医科大学皮膚科）、「尖圭コンジローマ」川名敬／ミニシンポジウム1「性の未来—ヒトはセックスを捨てるのか」：「シャセイできないオトコたち—マスターベーションのモンダイ」小堀善友（獨協医科大学埼玉医療センター）、「深刻化する日本の少子化—原因はセックスレス？」北村邦夫（一般社団法人日本家族計画協会）／ミニシンポジウム2「性感染症：世界の状況と国際協力」：「HIV、B型肝炎、梅毒の母子感染排除，Triple Eliminationを目指して」西島健（世界保健機関西太平洋地域事務局）、「エイズ流行終結への道筋にCOVID-19流行がもたらした光と影—日本がとるべき対応」田沼順子（国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター）／ミニシンポジウム3「HPV感染症を再考

する」：「子宮頸部・腔HPV感染から発癌までの自然史を再考する」；Molecular mapping法による網羅的HPV解析から」笹川寿之（金沢医科大学産科婦人科）、「外陰部疣贅（尖圭コンジローマ）の診断と治療を今一度考えなおす」川瀬正昭（千葉愛友会記念病院皮膚科）／ミニシンポジウム4「感染症の未来」：「性感染症の未来を予測する」高橋聡、「歴史に学ぶ感染症予防対策のストラテジー」岡部信彦（川崎市健康安全研究所）／一般演題プレナリーセッション／共通講習1：医療倫理「遵守すべき研究倫理とは？」：「人を対象とする医学研究の歴史と『研究倫理』の誕生」石地豊子（がん研究学会がんプレジジョン医療研究センター次世代がん研究シーズ育成プロジェクト）、「研究成果を発表する，投稿する前にすべきこと」重村克巳（神戸大学泌尿器科）／共通講習2：感染対策「新型コロナウイルスの施設内感染を防ぐには」：「施設内感染発生時の対応」四柳宏（東京大学医学部研究所先端医療研究センター感染症分野）、「施設内感染発生予防の取り組み」堀野哲也（東京慈恵会医科大学感染制御科）、「クラスター対策より見た施設内感染の問題点」山岸拓也（国立感染症研究所薬剤耐性研究センター）／認定士への集い「認定士と性感染症予防活動に関わる人の会」日本性感染症学会認定委員会

事前参加登録（二次締切）：12月6日（日）14:00

参加登録費（二次締切）：医師・医療従事者・企業1万2000円，学部学生・大学院生・初期研修医は無料

学会事務局：東京慈恵会医科大学皮膚科学

〒105-8461 東京都港区西新橋

3-25-8

☎ 03-3433-1111

運営事務局：株式会社サンプラネット
メディカルコンベンション事業部

〒112-0012 東京都文京区大塚
3-5-10 住友成泉小石川ビル6階

☎ 03-5940-2614

☎ 03-3942-6396

✉ sti33@sunpla-mcv.com

第22回日本子ども健康科学学会学術大会

テーマ：生きる力を育てる

日時：12月6日（日）

会場：Web開催（Zoom）

プログラム：シンポジウム1「生きる力を支える」：「小児看護・セルフケア」及川郁子（東京家政大学），「病気の子どもを支えるリエゾン・コンサルテーション」菊地祐子（東京都立小児総合医療センター），「プレパレーションについて」棚瀬佳見（あいち小児保健医療総合センター）／一般演題／特別講演1「新型コロナウイルス感染症から見たもの」森島恒雄（愛知医科大学）／特別講演2「偏食外来」大山牧子（神奈川県立こども医療センター）／シンポジウム2「食育」ということ：「基調講演」伊藤浩明（あいち小児保健医療総合センター），「子どものNST（栄養サポートチーム）」高増哲也（神奈川県立こども医療センター），「学校給食・食育」高田尚美（名古屋学芸大学管理栄養学部）

※大会後，一般演題以外の大会内容を全てオンデマンド配信

参加費：会員4000円，非会員6000円，学生1000円

運営事務局：アレルギー支援ネットワーク

〒453-0042 愛知県名古屋市中村区大秋町2-45-6

☎ 052-485-5208

URL www.alle-net.com

第27回日本行動医学会学術総会

日時：12月11日（金）～12日（土）
オンデマンド配信期間（予定）：12月6日（日）～31日（木）

会場：Web開催

テーマ：Work, Happiness, and Health—今，直面している危機をどう乗り越えるか

プログラム：大会長講演「Work, Happiness, and Health」中田光紀（国際医療福祉大学）／教育講演1「コロナ危機における心理的支援」橋本和典（国際医療福祉大学）／教育講演2「新しい船員の健康管理体制」久宗周二（神奈川大学）／教育講演3「遺伝と行動」西垣昌和（国際医療福祉大学）／シンポジウム1「睡眠負債・社会的時差ボケへの行動医学的対応」：柴崎貴通（国際医療福祉大学），池田大樹（労働安全衛生総合研究所），「青年期の発達という視点からSJMの理解と対応策」駒田陽子（明治薬科大学）／シンポジウム2「健康経営と行動医学」：「健康経営研究班の全体像と中小企業インタビュー」永田智久（産業医科大学），「健康経営度調査票（健康施策⇒健康アウトカム）」永田昌子（産業医科大学），「健康経営度調査票（経営アウトカム）」山本勲（慶應義塾大学），「介入の具体例」松平浩（東京大学）／シンポジウム3「様々な生体試料を用いたストレス研究」：島ノ江千里（佐賀大学），菅谷渚（横浜市立大学），井澤修平（労働安全衛生総合研究所）／シンポジウム4「サイバー空間を活用した認知行動療法の近未来」小堀修（国際医療福祉大学），竹林由武（福島県立医科大学），富田望（早稲田

大学）／日本行動医学会教育研修委員会企画「これからの行動医学の教育研修：過去から未来へ」／若手の会の企画／一般演題（ポスター）

参加登録料：会員5000円，非会員6000円，学生（含院生）1000円

学術総会事務局：筑波大学人間系心理学域大塚泰正研究室

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学文京校舎415研究室

✉ 27th.jsbm@gmail.com

第24回日本ワクチン学会学術集会

日時：12月19日（土）～20日（日）

会場：Web開催

テーマ：ワクチンで創る持続可能な未来の医療

プログラム：会長講演「ワクチンの効果と安全性に関するエビデンス創り」吉川哲史（藤田医科大学医学部小児科学）／特別講演1「Considerations in development of vaccines for emerging infections, including COVID-19」Philip Krause（Deputy Director, Office of Vaccines Research and Review, FDA/CBER）／特別講演2「国際保健外交から見たワクチン政策について」江副聡（外務省国際協力局国際保健政策）／特別シンポジウム「新型コロナウイルスとBCG」：「ワクチンのオフターゲット効果」石井健（東京大学医科学研究所感染・免疫部門ワクチン科学），「新型コロナウイルス感染症とBCGワクチン：現時点での疫学研究結果から言えること」福島若葉（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）／シンポジウム1「Cutting edge in Vaccinology」：「HHV-6B ワクチンの開発」森康子（神戸大学大学院医学研究科附属感

染症センター臨床ウイルス学分野),「Immunity induced by endogenous viral RNAs」PARRISH Nicholas (理化学研究所生命医科学研究センターゲノム免疫生物学理研白眉研究チーム),「HPV ワクチンの有効性・安全性に関する系統的レビュー」大藤さとこ (大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学) / シンポジウム2「Vaccine shortage」:「接種医の立場からみたワクチン不足」中村豊 (ゆたかこどもクリニック),「ワクチン不足が生じる要因と解決策」林修一郎 (厚生労働省健康局健康課予防接種室),「アカデミアの立場から」中野貴司 (川崎医科大学小児科学),「ワクチン製造企業の立場から」今川昌之 (一般社団法人日本ワクチン産業協会) / シンポジウム3「ワクチン免疫防御効果の向上を目指して (アジュバント, 腸内フローラなど, 宿主側要因も)」定岡知彦 (神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター臨床ウイルス学),「腸内環境を介した免疫制御とワクチン研究への展開」國澤純 (医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチン・アジュバント研究センター),「脂質認識免疫受容体を標的としたワクチンアジュバントの開発」山崎晶 (大阪大学微生物病研究所分子免疫制御分野),「粘膜免疫誘導アジュバントによる疾患制御」植松智 (大阪市立大学ゲノム免疫学),小檜山康司 (東京大学医学研究所感染・免疫部門ワクチン科学) / シンポジウム4「Emerging infectious disease に対するワクチン開発」:「慢性持続感染を呈する HIV 感染症の克服に向けたワクチン開発戦略」石井洋 (国立感染症研究所エイズ研究センター第一研究グループ),「エボラ出血熱の制圧に向けたワクチン研究」渡邊登喜子 (大阪大学微生物病研究

所),「高度弱毒化痘そうワクチン株 LC16m8 をベースとした SFTS ワクチンの開発」吉河智城 (国立感染症研究所ウイルス第一部),「COVID-19 のワクチン開発について」長谷川秀樹

事前参加登録期限: 12 月 10 日 (木)

参加費: 会員 8000 円, 非会員 1 万円, 学生 2000 円

学術集会事務局: 藤田医科大学医学部小児科学

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98

運営事務局: 株式会社オフィス・テイクワン

〒451-0075 愛知県名古屋市西區康生通 2-26

☎ 052-508-8510

✉ jsvac24@cs-oto.com

第 9 回日本公衆衛生看護学会学術集会

日時: 12 月 25 日 (金) ~ 2021 年 1 月 24 日 (日)

会場: Web 開催 (Zoom 等)

開催スケジュール: 12 月 25 日 (金) メインプログラム講演掲載開始 (オンデマンド配信) / 2021 年 1 月 9 日 (土), 10 日 (日) メインプログラム質疑・意見交換実施 / 2021 年 1 月 9 日 (土) 一般演題発表・ワークショップ掲載開始 (オンデマンド配信)

テーマ: 公衆衛生看護の責任と実践—誰も取り残されない「社会的包摂」の実現をめざして

プログラム: 会長講演「公衆衛生看護の責任と実践—誰も取り残されない「社会的包摂」の実現をめざして」大木幸子 (杏林大学保健学部看護学科教授) / 基調講演「ハンセン病対策の歴史から保健師の活動を照射する—公衆衛生看護の責任と実践をふまえて」木村哲也 (国立ハンセ

ン病資料館学芸員) / 教育講演 1「私たちは思考し続けることができる—カーハンナ・アーレントから学ぶ」矢野久美子 (フェリス女学院大学教授) / 教育講演 2「水俣 (MI-NAMATA) の歴史に学ぶ公衆衛生の役割と責任」宮北隆志 (熊本学園大学教授) / シンポジウム 1「貧困と孤立を越え地域に居場所を紡ぐために」:「生活困窮状況にある子どもと家族への保健活動」藤田恭子 (上尾市健康福祉部生活支援課),「ハウジングファーストによる路上生活からの脱却」稲葉剛 (つくろい東京ファンド),「HIV 陽性者のもつ生きづらさへの支援」生島嗣 (ぶれいす東京),「居場所がない妊婦からの SOS」中島かおり (ピッコラーレ) / シンポジウム 2「療養者・家族中心の地域包括ケアシステム構築 1—療養者・家族の意思決定を支える」:「ナラティブアプローチ—物語ることの意味」宮坂道夫 (新潟大学大学院保健学研究科),「神経難病療養者と家族の療養生活の選択を支える」倉下美和 (東京都多摩府中保健所),「ICT を活用した患者のものがたりと語りの共有による在宅医療」伊藤伸一 (秋田県医師会),「人生と生活に寄り添う支援への ICT の可能性」丹野清美 (国立病院機構東京医療センター) / 公衆衛生看護技術セミナー 1「公衆衛生看護技術を見える化する」佐伯和子 (北海道大学) / 公衆衛生看護技術セミナー 2「公衆衛生看護の責任を継承する—『宮本ふみ』が残した実践者へのメッセージ」:「地域と住民によりそい協働する支援—宮本ふみさんと共に築いた活動」塚原洋子 (なごみ研究所),「宮本ふみさんが実践し, 発信した保健師の技術」佐野信也 (防衛医科大学),「先達の足跡から学ぶ保健師のまなざしと技術」三浦千裕

(東京都南多摩保健所), 「『無名の語り』をとおして保健師教育課程で学生伝える保健師の技術」 福本久美子 (九州医療福祉大学) / 特別セミナー「介護者支援による地域づくり活動と保健師への期待」 牧野史子 (介護者サポートネットワークセンター・アラジン), 介護者 / パネルディスカッション1「DV被害者支援と児童虐待予防との連携」 加茂登志子 (若松町こころとひふのクリニック), 川野由紀子 (東京都北児童相談所), 笠真由美 (杉並区こども家庭部), 戸賀澤亮子 (前埼玉県立高校養護教諭) / パネルディスカッション2「療養者・家族中心の地域包括ケアシステムの構築—多様な課題をもつ療養者と家族を包摂する地域包括ケアシステムの構築」: 「難病療養者の生活課題と地域ケアシステム」 岡田美保 (東京都保健政策部疾病対策課), 「HIV陽性者の高齢化を踏まえて地域ケアシステムを考える」 自治体保健師, 「医療的ケア児の地域生活を支える地域ケアシステム」 谷口由紀子 (淑徳大学), 「障害児・障害者を支える地域ケアシステムづくり」 相良裕美 (多摩市健康福祉部障害福祉課) / シンポジウム3「災害とリスクコミュニケーション—福島第一原子力発電所の事故から10年を振り返る」 / 特別企画「新型コロナウイルス感染症対策における保健師の役割」 / 宮本ふみ企画展「宮本ふみさんからのメッセージ」 / ハンセン病資料館企画展「ハンセン病の歴史を学ぶ」 / 水俣学企画展「MINAMATAから学ぶ水俣学」 / 一般演題 / ワークショップ / 学会活動報告 (会員集会) / 等

参加登録期限: 2021年1月4日 (月)

参加費: 会員 7000 円, 非会員 8500 円, 学生 2000 円

学術集会事務局: 杏林大学保健学部
看護学科

〒181-8611 東京都三鷹市新川
6-20-2

✉ japhn9@ks.kyorin-u.ac.jp

運営事務局: (株) ユピア

〒456-0005 愛知県名古屋市熱
田区池内町 3-21

☎ 052-872-8101

✉ japhn9@yupia.net

URL japhn9.yupia.net

開催情報は 11 月 6 日現在のものです。最新の情報は主催者にお問い合わせください。

● ● ●

本欄へ掲載を希望する学会・研究会・講演会などのお知らせがありましたら、本誌編集室までお送りください。

● ● ●

〒113-8719

東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 03-3817-5774

✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp